心豊かでたくましく 共に生きる子ども

ひらかた

11月号

令和８年１０月３０日
上尾市立平方小学校
校長　大野　和孝

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ 上尾市 平方小学校 検索 QR ｺｰﾄﾞ

深まる秋に耳を澄ませる

校長　大野　和孝

校庭の木々も鮮やかに色づき始め、心地よい秋風が吹き抜ける季節となりました。朝夕の寒暖差を感じる日が増えてまいりましたが、子供たちは澄み渡る秋空の下、校庭を元気に駆け回り、スポーツや遊びに伸び伸びと汗を流しています。季節の深まりとともに、子供たちの明るい笑顔と元気な声が学校中にあふれ、生き生きと学校生活を送る姿を大変嬉しく頼もしく感じているところです。

さて、９月末に本校で実施いたしましたオーケストラ鑑賞会では、プロの演奏家の方々が奏でる本物の音色に触れる素晴らしい時間となりました。拠点である地元の「草津節」の曲をアレンジしながら楽器を紹介してくださったり、オーケストラの壮大な演奏に合わせて全校で校歌を歌ったりと、会場全体が一体となった温かい空気に包まれました。普段歌い慣れている校歌がいつも以上に誇らしく美しく響き渡り、子供たちの目が一段と輝いたのが印象的でした。本物の芸術に触れ、心が大きく揺さぶられる体験は、子供たちの心の中に豊かな種をまいてくれたと感じております。

そして、１１月号の原稿を考えている今まさに、校舎内は熱を帯びた心地よい音色や歌声が響いています。１０月末に開催される「ミュージックフェスティバル」に向け、各学年・学級での練習がいよいよ大詰めを迎えているためです。

音楽室や体育館、教室から聴こえてくる音に耳を澄ませていると、子供たちの様々なドラマが見えてきます。最初は「周りと音や歌声が合わない」「自分のパートがうまく演奏できない」といった壁にぶつかり、首をかしげたり悩んだりする姿がありました。しかし練習を重ねるうちに、子供たちは大切なことに気づき始めます。「自分だけが大きな声を出すのではなく、隣のお友達の声を聞くこと」「周りの楽器のリズムにそっと耳を澄ませること」――自分以外の音を感じ取り、合わせようと一歩寄り添うことで、バラバラだった音が少しずつ一つになり、思いがけないほど美しい響きへと変わっていく面白さや心地よさを、子供たちは身体全体で感じ取っていきます。

今年度のミュージックフェスティバルは2部制をとらず、すべての学年の発表をご覧いただく形といたしました。低学年の可愛らしく真っ直ぐな歌声から、高学年の豊かな表現力が光る演奏まで、発達段階に応じたそれぞれの彩りをお届けいたします。他学年の姿を見ることで、我が子の歩んできた道や未来の成長した姿に想いを馳せていただければ幸いです。

紅葉が彩りを増すように、子供たちの奏でる音色もまた、仲間と響き合いながら深みを増してまいりました。一つの表現を創り上げる過程で得た「他者を思いやる心」や「仲間とやり遂げた自信」は、今後の学校生活や子供たちの将来を支える大きな糧となると信じております。

2 学期も後半に入り、一年の締めくくりに向けた大切な時期を迎えます。これからも教職員一同、子供たち一人ひとりの健やかな成長と可能性を大切に育んでまいります。保護者の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。